

策定年月	令和5年5月
見直し年月	令和〇年〇月

大豆国産化プラン

産地名：福岡県うきは市

（作成主体：うきは市水田農業推進協議会）

1. 大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○現状と課題

- ・近年、大雨や乾燥等の影響、作付頻度の増加に伴う地力低下等により、収量が低迷し、生産量は391t
- ・生育量を確保するため、土壌診断に基づく土づくりを行う。また、播種適期が梅雨と重複するため、雨の合間に播種できる体制整備が必要。
- ・アサガオ類やホオズキ類が多発しているほ場は、収量が低下しているため、薬剤防除と機械除草を組み合わせた防除体系が必要。

○課題解決に向けた取組方針

- ・連作障害を軽減するため、土壌診断に基づく土壌改良資材並びに施肥を実施する。
- ・省力播種技術である部分浅耕一工程播種技術等の導入や適切な雑草防除により収量・品質の向上を図る。
- ・令和5年から収量性の高い「ちくしB5号」への品種転換を図り、令和6年には作付面積を210haまで拡大。

※ 表・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

うきは市で生産した「ちくしB5号」は、大豆実需者 非公開 へ21.7トン、 非公開 へ21.7トン、 非公開 へ65.3トン、 非公開 へ144.5トン、その他で246.8トン販売を見込む。

フレコン出荷をすることにより、大豆の物流の安定的な確保と流通経費の抑制、環境負荷の低減を図る。

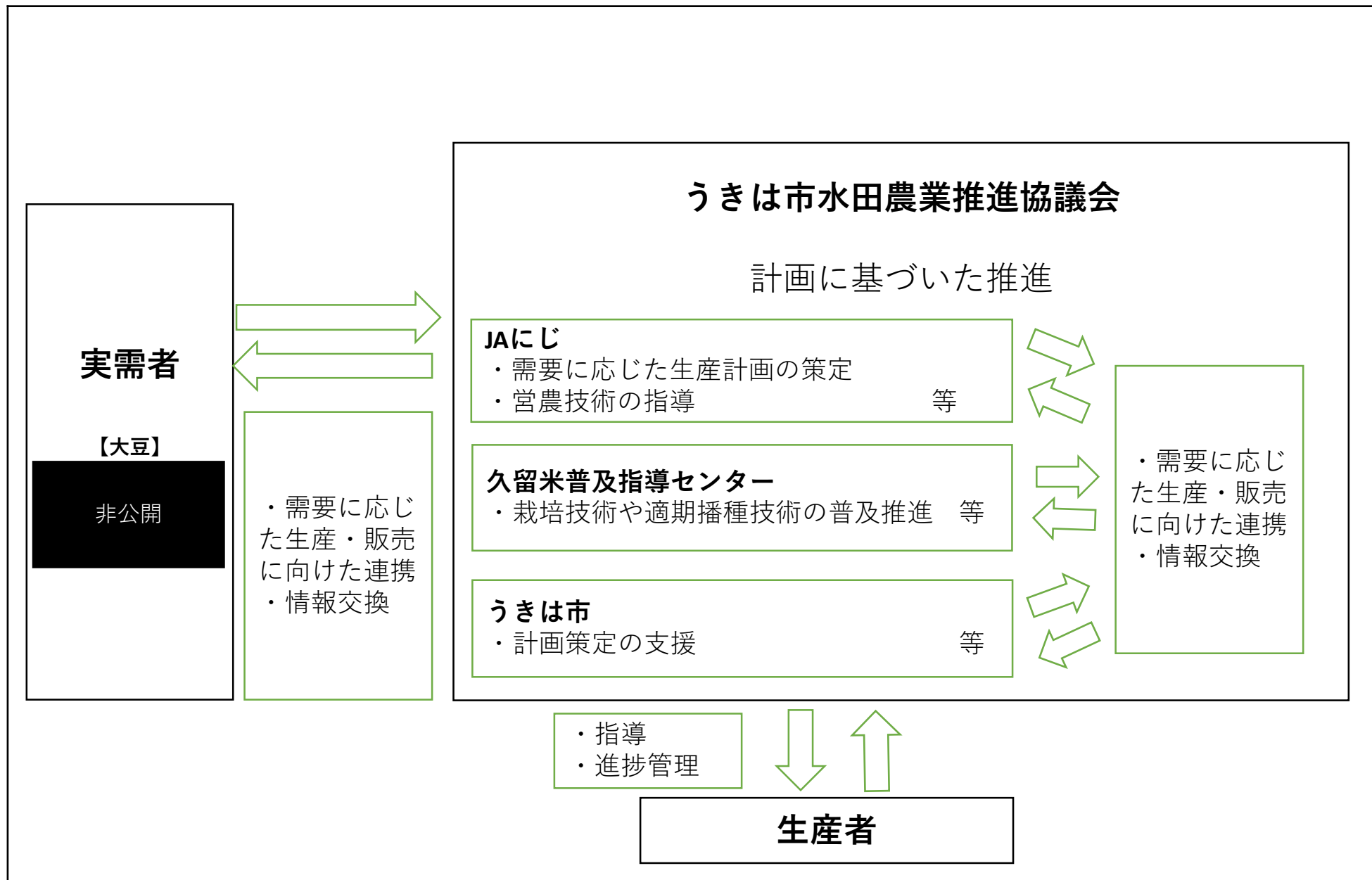
国産取扱量

単位:t

品 種 名	産地取扱量		実需者取扱量	
	現状(令和 4 年産)	目 標	現状(令和 4 年産)	目 標
フクユタカ	391	0	367	0
ちくしB5号	0	555	0	500

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。
※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。